SRHD社長が講義

福山大で 企業ブランディング解説

昭和陸運（荒木栄作社長、広島県福山市）を中核とするSRホールディングス（同）は13日、福山大学で講義を行った。経済学部などの学生を対象にした授業で、荒木社長がSRグループの概要や歴史、理念、経営戦略などを説明するとともに、次世代の担い手にメッセージを送った。

就職活動に臨む学生が地元企業や地域経済に理解を深めることを目的に、備後地方の有力企業の経営者など10人を講師に迎えて9月下旬から実施されていた同大のカリキュラム。張楓（ちょうふう）教授からの依頼で、荒木氏が最終日の講義を受け持った。本来は大学に出向く予定だったが、年始から新型コロナウイルス感染者が急増したのを受け、オンラインでの講演に変更となった。

荒木氏はパワーポイントを活用しながら、SRHDの存在意義やビジョン、M&A（合併・買収）を含めた異なる8事業の多角経営と成長戦略、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組み、企業ブランディングの手法などを具体的に解説。また、グループのリクルート用動画や新社屋を竣工した際の映像も紹介した。

同学部を中心とした2～4年生の25人が、モニター画面を通じて聴講。荒木氏は自身の指針にもしている「人事天命」の言葉を引用し、「人生の出来事には全て意味がある。世間や他人の目を気にせず、皆さんの前にしっかり準備し、相手の視点や立場を考えること。でも、あなたの話は私にしっかり伝わったので、伝える力は十分にある。自分の長所に気付いてそれを伸ばして欲しい」とアドバイスした。（矢野孝明）

モニター越しに学生に語り掛ける荒木社長

人生は自身がハンドルを握って挑戦し続けていただきたい」と締めくくった。

80分の講義後、女子学生がプレゼンテーションの上達方法について質問。荒木氏は「事

中学生からお礼の手紙

昭和陸運

「講義で知ったSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みを周りの人に知らせ、自分にできることを見つけて地球を守るための行動をしていきたい」。昭和陸運の草野貴之経営企画室長に地元中学生から送られた、心のこもった手紙の一文だ。

草野氏は2021年11月30日、福山市立一ツ橋中学校でSDGsをテーマに講義。1年生向け自己探求学習の一環で、生徒自身が地元企業の中から講師役を探して要請まで行うというカリキュラムだ。

生徒が6グループに分かれ、それぞれ学習する企業として福山市に本社や事業所を置く会社を選定。名だたる有名企業が指名され、物流業界では唯一、昭和陸運に白羽の矢が立った。

心のこもった13通の手紙

予習段階の企業研究から講師役を買って出た草野氏は、自社のSDGsに対する活動や理念、環境保全や効率化を念頭に置いた業務などを説明。締めくくりに「サステナブル（持続可能）な取り組みは一つひとつメリットがあり、大勢の人に役立つことがたくさんある」と言葉を送っていた。

冒頭の一文は、担当した生徒13人から12月中旬に届いたお礼の手紙の抜粋だ。このほか、「SDGsに真剣に取り組み、きれいで平和な社会にしていきたい」

自己探求学習で講師に

「（昭和陸運の理念である）社会に貢献するという考えは学校活動にも必要」「親が車のエンジンをつけっぱなしにしていたら注意する」「明るい時間は電気を消そうと思う」といった感想が、丁寧な文字でしたためられていた。

手紙を読んだ草野氏は、「SDGsの目標は、企業や社会だけでなく日常生活に生かせることを再認識した。何かに貢献したいという気持ちは誰にもあり、SDGsはそれを導くもの。学生と一緒に勉強することはサステナブルな考えを広げることにつながるので、今後もこうした機会を増やしていきたい」と話している。（矢野孝明）